

**製品名: DOR-1 (リン酸化 Ser363) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04560**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	OPRD1
別名	OPRD1; OPRD; Delta-type opioid receptor; D-OR-1; DOR-1
遺伝子 ID	4985.0
SwissProt ID	P41143
免疫原	抗血清は、ヒトオピオイド受容体デルタの Ser363 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 323-372

**背景**

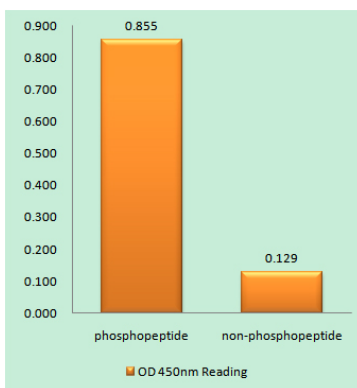
機能: カルシウムイオン電流を減少させ、カリウムイオン伝導率を上昇させることで神経伝達物質の放出を阻害する。立体選択性が

高い。エンケファリン受容体。オンライン情報：デルタオピオイド受容体エントリー。類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。サブユニット：GPRASP1と相互作用する。機能：カルシウムイオン電流を減少させ、カリウムイオン伝導率を上昇させることで神経伝達物質の放出を阻害する。立体選択性が高い。エンケファリン受容体。オンライン情報：デルタオピオイド受容体エントリー。類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。サブユニット：GPRASP1と相互作用する。

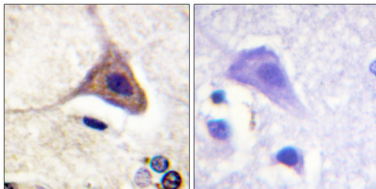
## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

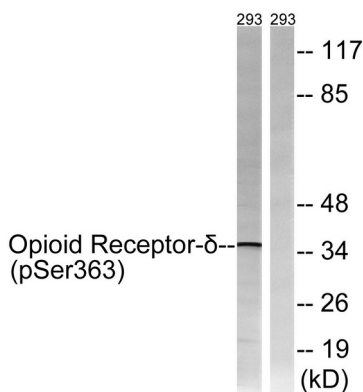
## 画像データ



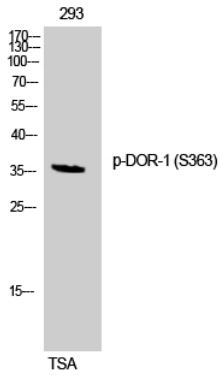
オピオイド受容体デルタ（リン酸化 Ser363）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定法（リン酸化 ELISA）



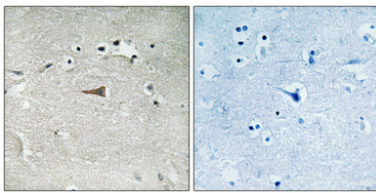
オピオイド受容体デルタ（リン酸化 Ser363）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TSA 400nM で 24 時間処理した 293 細胞ライセートのオピオイド受容体デルタ（リン酸化 Ser363）抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 DOR-1 (S363) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。